受注企業動向調査結果

－2026.6－

■調査時点　令和8年6月調査（令和8年6月末時点）

■対象企業　150社

■調査時期　4半期毎（3、6、9、12月末時点）

■回答企業　101社（回答率：　67.33　%）

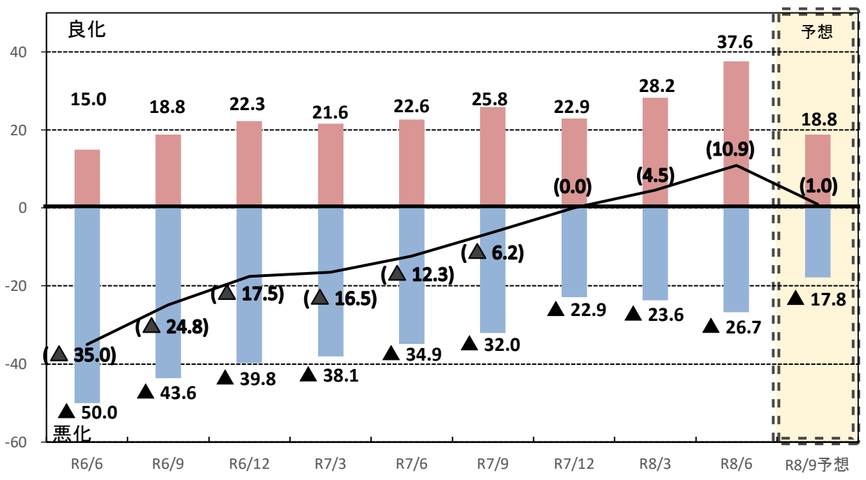
DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

＜業種内訳＞

プラスチック	8 社
鉄鋼・非鉄	7 社
金属製品	23 社
一般機械器具	24 社
電気機器	19 社
輸送用機器	7 社
精密機器	8 社
縫製	5 社
計	101 社

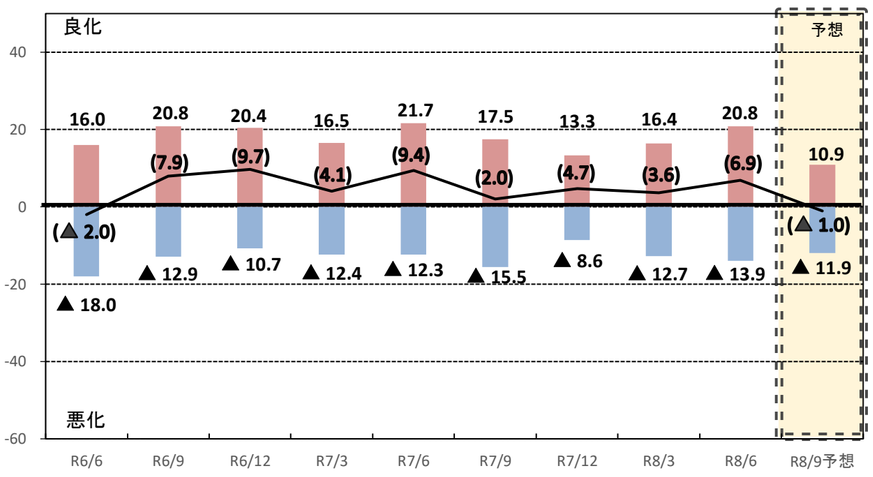
●生産高

前年同月比



●受注単価

前年同月比

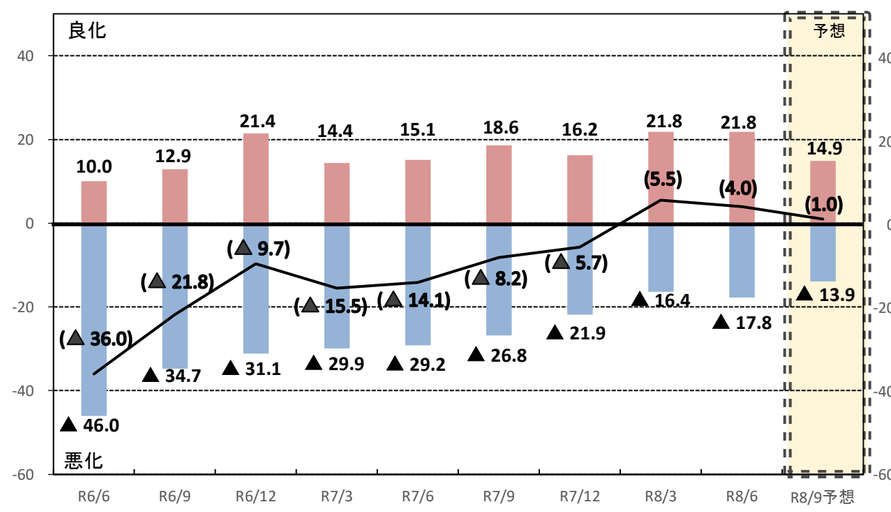


		R6/6	R6/9	R6/12	R7/3	R7/6	R7/9	R7/12	R8/3	R8/6	R8/9予想
生産高	前年同月比	▲ 35.0	▲ 24.8	▲ 17.5	▲ 16.5	▲ 12.3	▲ 6.2	0.0	4.5	10.9	1.0
受注単価	前年同月比	▲ 2.0	7.9	9.7	4.1	9.4	2.0	4.7	3.6	6.9	▲ 1.0

悪化　回答率
良化　回答率
DI値

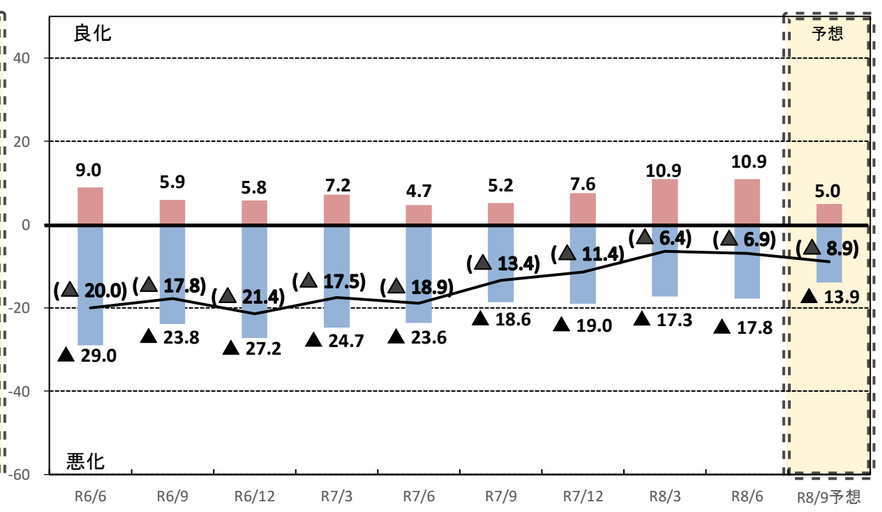
●稼働状況

前年同月比



●資金繰り

前年同月比



		R6/6	R6/9	R6/12	R7/3	R7/6	R7/9	R7/12	R8/3	R8/6	R8/9予想
稼働状況	前年同月比	▲ 36.0	▲ 21.8	▲ 9.7	▲ 15.5	▲ 14.1	▲ 8.2	▲ 5.7	5.5	4.0	1.0
資金繰り	前年同月比	▲ 20.0	▲ 17.8	▲ 21.4	▲ 17.5	▲ 18.9	▲ 13.4	▲ 11.4	▲ 6.4	▲ 6.9	▲ 8.9

悪化　回答率
良化　回答率
DI値

●概要（総合）

・生産高（前年同月比）DIは10．9で、前回の4．5から6．4ポイント増となった。

・受注単価（前年同月比）DIは6．9で、前回の3．6から3．3ポイント増となった。

・稼働状況（前年同月比）DIは4．0で、前回の5．5から1．5ポイント減となった。

・資金繰り（前年同月比）DIは▲6．9で、前回の▲6．4から0．5ポイント減となった。

・3ヶ月後の予想DIは、生産高が1．0、受注単価が▲1．0、稼働状況が1．0、資金繰りが▲8．9という予想になった。

・その他自由意見として、

【一般機械器具】
・受注収益は良好な状態が続いているが、人員不足により、受注残が増加している。
中東紛争の影響は致命的ではないが、潤滑油、接着剤当の仕入れ遅延、中止の影響が出始めている。
現状では中国を主因とする金属材料（ニッケル、銅、タングステン）の高騰の影響の方が大きい。
・ナフサ不足の影響があるが、なんとかつながっている。資材不足の影響で操業を停止したという話は聞いていない。

【縫製】
・中東問題の影響により、色料・薬品の納入が不安定、さらに大幅な値上げで経営状況が3月以降、急速に悪化。

【鉄鋼・非鉄】
・原材料である銅の価格の高騰による仕入れコストの急激な上昇、中東情勢による原材料費の高騰の問題と二重のコスト増が厳しい。価格転嫁は良好に進んでいる。

【電気機器】
・AI関連の受注増加に伴い、増産体制をとっており、人材確保を行っている。
・中東問題で先行きが不透明。
・ナフサ問題に絡む影響が顧客から出始めている。自社にも大きくはないが影響が出てきている。

【輸送用機器】
・状況は徐々に改善している。人材確保について、福島県でもっと積極的に動いて欲しい。

という意見が寄せられた。